

# 道徳科学習指導案

指導者	森 大樹 (T1) 向井 大 (T2)
教材名	一冊のノート
主題名	家族の在り方
内容項目	C- (14) 家族愛, 家庭生活の充実
学年・組	3年2組 (男子18名 女子12名 計30名)
場 所	3年2組教室

## 主題観

家族は、親子及び兄弟姉妹という関係により一般的に成り立ち、その一人一人が誰かと取り替えることができないかけがえのない価値を有する存在である。人間は過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。祖父母や父母が在ること、そして、自分はそのかけがえのない子どもとして深い愛情をもって育てられていることに気づかせることが大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母に対して敬愛の気持ちを深めることが必要である。父母、祖父母に敬愛の気持ちを深めていくことや家族の中で自分の役割や責任を果たすことを通して、家族の一員であることの自覚が高まっていくものである。

本教材「一冊のノート」では、老いていく祖母と同居する主人公「僕」が、認知症で物忘れが激しくなった祖母にうとましさや腹立たしさを感じるところから始まる。ある日「僕」は、祖母の一冊のノートを見つける。その中には、自分でも記憶がどうにもならないもどかしさや、これから先の不安が切々と書き込まれており、「僕」は祖母の苦悩や家族への深い愛情に気づき、いたたまれなくなる。そして、「僕」は黙って祖母と並んで草取りをする中で、祖母に支えられてきたことへの感謝の思いを強くする。「僕」に共感させながら、自分事として考え、家族の在り方について考えさせるのに適した教材である。

## 生徒観

本学級の生徒は事前アンケートの「道徳科の勉強はためになる」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が92%と高く、道徳科の必要性を感じている。しかし、事前アンケートの「道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が67%と低い状況である。授業においては、自分の意見を積極的に発言しない雰囲気があるが、友達と話し合ったり、問い返したりすることで多様な発言が生まれ、授業を活発に進めることができる。

本授業の内容項目に関連して、中学3年生は思春期であり、家族や大人に反発したり、素直に感謝できなかつたりする傾向がある。事前アンケートの「家の人とのやりとりの中で、うとましく思うことや反発することがある」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が54%であり、半数以上の生徒が家の人との関わりで煩わしさを感じている。しかし、事前アンケートの「家の人自分のことをよくわかってきている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が100%であり、心の内では家の人からの愛を感じ取っている。次の段階として、家族の中での自分の役割や責任を果たそうとする態度を養う必要がある。

### 事前アンケートの結果

質問内容	肯定的回答
道徳科の勉強は好きだ	78%
道徳科の勉強はためになると思う	92%
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	92%
道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている	89%
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	67%
家の人とのやりとりの中で、うとましく思うことや反発することがある	54%
家の人自分のことをよくわかってきている	100%

## 指導観

本教材は、祖母に対する自己中心的な考え方をもっていた「僕」が、一冊のノートに書かれた祖母の思いを知り、祖母と並んで草取りをするようになるという内容であり、「僕」の心情が大きく変容していく。この「僕」の心情の変容を考えさせることを通して、家族を大切に、家族の一員としての役割を果たそうとする態度を養っていく。「僕」の心情理解のみに偏った展開にならないように、自分との関わりの中で考えたり、自分事として考えたりできるような補助発問や問い返しをしていく。授業の終末では、中心発問で見出された考えを実生活に照らし合わせ、ねらいにせまるとともに道徳的実践につながるようにしていく。

生徒の実態を踏まえた手立てとして、個人思考の手助けや意見を積極的に発言できるようにするためにペアトークを活用したり、多様な意見を引き出し活発な雰囲気となるように、1対1のやりとりで終わるのではなく、問い返しを他の生徒に広げたりしていく。

## 本時の学習

### (1) 本時のねらい

祖母の苦悩や不安、家族への思いに気づく主人公の姿を通して、家族への敬愛を深め、家族の一員としての役割を果たそうとする態度を養う。

### (2) 評価

「僕」に共感しながら祖母を大切に思う発言・記述や自分の家族を大切に思い、家族の一員としての役割を果たそうとする発言・記述が見られる。(授業での発言とノートへの記述で評価)

### (3) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 発問の意図 手立て
導入 5分	1. 主題について関心をもち。	○家の人との状況についての事前アンケートの結果を振り返る。 ○最近、家族との関係はどうか。 ・うとましく感じる ・言い合いになる ・仲がよい ・自分のことを分かってくれている	・家庭事情に十分に配慮する。 ・「家族の在り方」について考えることを伝え、視点を明確にする。
展開1 15分	2. 範読を聞き、「僕」の心情の変容について考える。	○問題集が見つかった時や祖母の手から買い物籠をひったくった時、「僕」はどんな気持ちだっただろうか。 ・おばあちゃんのせいで被害にあっている ・家族に迷惑ばかりかけている ・しっかりしてほしい  ○ノートの最後の空白のページにぼつんとにじんだインクの跡を見て、「僕」はどんな気持ちになっただろうか。(個人→ペア) ・こんなに不安や悩みを抱えていたのか ・ひどいことを言って申し訳ない ・気持ちを分かってあげられなくて申し訳ない ・僕たちのことを思ってくれていてありがとう	・心情の変容を考えやすいように場面絵を掲示する ・祖母の行動にいらだつ気持ちをとらえさせる。 ・状況によっては自分が「僕」の立場ならどう思うか考えさせる。 ・家族の一員として、祖母が家族を思う深い愛情に気づかせる。

<p>展開 2 20 分</p>	<p>3. 主人公の行動を支えた思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人でノートに記入する。</li> <li>ペアで交流する。</li> </ul>	<p>◎祖母と並んで草取りをする「僕」はどんなことを考えていたのだろうか。 (個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これからは自分がおばあちゃんを支える</li> <li>これからはおばあちゃんにしてもらわなくても自分でできるようになる</li> <li>家族の一員として自分にできることをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主人公の行動を支えた思いを考えさせる。</li> <li>心情理解で終わらず、道徳的価値に迫るように問い返しをする。</li> <li>祖母を大切にする思いや家族の一員として自分にできることをしようとする決意を持っていることに気づかせる。</li> </ul>
<p>終末 10 分</p>	<p>4. 家族の在り方について、自分事として考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人でノートに記入する。</li> </ul>	<p>◎家族の一員として、今後どんなことを考えたり、どんな行動をしたりして生活するか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族が自分を大切に思ってくれている以上に、家族を大切に思いたい</li> <li>家族それぞれ、自分でできることは自分でやりたい</li> <li>家族の一員としてこれからは支える側になりたい</li> <li>家族の一人として役割をつないでいきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段の自分が家族の一員としてどのような状態か振り返りながら記入させる。</li> </ul>

(4) 板書計画

